



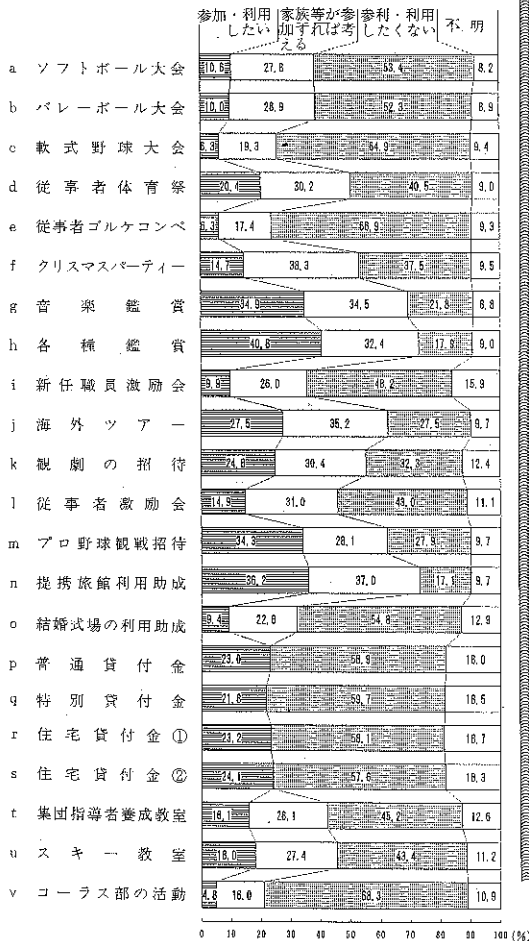
# 福利厚生事業

会員2000名に聞きました

集団指導者養成教室演習風景

## 今後の参加意向

(回答数=1663)



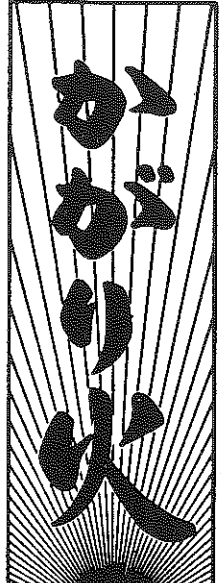
(アンケート調査結果の詳しい資料を希望の方は事務局迄)

従事者の福利厚生事業は「(財)大阪民間社会福祉従事者共済会」で企画・運営されているが、余暇に対する意識や価値観が大きく変化している今日何が従事者の希望であるか判断が非常に難しくなってきた。従事者部会としては、従事者の福利厚生に対する意見を集約することで、今後の企画

また、施設長はおおむね各事業について知っている。また、施設長は、従事者の結果が出た。また、施設長は、従事者の結果が出た。また、施設長は、従事者の結果が出た。

今後、この調査をさらに深く分析することで従事者の余暇に対する考え方がよる。また、施設長は、従事者の結果が出た。また、施設長は、従事者の結果が出た。

り明確になると思われるが、現段階では従来の福利厚生事業に対する認識がまだ希薄である。これは広報活動に工夫の必要性が問われているとも考えられるうえ、従事者には共済会に入会していることによってどのような特典が個人にあるのかまた、身近な特典が今後考えられるかが個人の認識に大きく影響するのだからと思う。また共済会の福利厚生事業が施設の福利厚生にうまく結びつくことにより施設長に理解を深め、より一



発行所  
〒542  
大阪府中央区中寺1-1-54  
大阪社会福祉指導センター内  
大阪府社会福祉協議会  
従事者部会  
発行人 伊山喜二

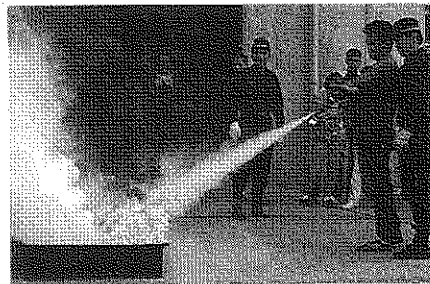
運営の参考にと考えアンケート調査を実施した。各業種の部会を通じ二千名の従事者に発送、一千六百六十六名分の回答があった。しかし、既存の福利厚生事業の認知と参加経験の問いについて各事業によって多少のばらつきがあるが参加・利用したことがあると回答したのは全体の平均で約九パーセント、参加・利用したことがない三三パーセント、不明七・三パーセント、今まで知らなかったとの回答は五十パーセントの結果が出た。また、施設長は、従事者の結果が出た。また、施設長は、従事者の結果が出た。



煙の性状体験



避難袋による脱出



消火器実射体験

# 消防訓練に挑戦

## 平成四年度 集団指導者養成教室

### 「市民消防教室」体験入学

平成4年度業種別参加者数

	老人	成人	児童	保育	母子寮	無低病院
第1回	16	5	10	19	2	—
第2回	—	5	15	44	—	—
第3回	16	6	10	16	—	5
第4回	31	9	7	22	—	—
計	63	25	42	101	2	5

平成4年度事業実施状況

回	期日	科目 および 講師	参加者
1	5%	「ワープロ教室」(基礎コース) シャープOAショールーム	52名 (午前23 午後29)
2	%	(1)開講式 (2)「救急法と水泳指導」 【講師】(財)健康管理・開発センター 指導員 山本敏正氏 花岡正高氏	64名
3	%	「消防訓練」 大阪市消防学校	53名
4	%	「新しい人間関係」 【講師】大阪体育大学附属福祉専門学校 教育部長 大塚保信氏 「ゲーム指導の実際」 【講師】大阪府レクリエーション協会 派遣講師 宮崎良雄氏	69名

平成四年度集団指導者養成教室は年四回開催し、のべ二三八名が受講した。五月開催のワープロ教室は今回が基礎コース三年連続の開催となり、初心者に人気が高かった。恒例の「救急法と水泳指導」は毎年七月に実施していたが、今回研修月として一番希望が多かった六月に行い、保育所・児童施設に根強い人気を保っている。十月に実施した「消防訓練」は初の試みとして行われ、福祉施設の人命安全を守るため、ふだんできない災害の模擬体験をし、いざという時役立ててもらおうと開かれたもの。

実火災を消火器で消す初期消火を体験した後、非常放送設備の操作や自動火災報知器など警報設備の説明を聞き、全員で屋内消火栓からの放水を体験し、放水による反動や筒先移動について学んだ。つぎにスプリンクラーによる水の放射状況を見学し、改めて消火威力のすごさに参加者全員が感心した。また煙中・暗中所ける避難の方法や避難袋を使った脱出方法も体験した。そして、煙の流れや空気の帯など煙の性状について講義を受け、あわてず落ちついて行動することの重要性を学んだ。

この実技指導を受けることで防災意識を高める有意義な研修となった。最終十一月の養成教室は指導センターで開催し、午前講義、午後体を動かす研修として定着しており、多くの参加者があった。今年度は老人施設からの参加者が多かったが、どの業種からも参加しやすい研修を検討している。また「救急法と水泳指導」や「ゲーム指導の実際」など集団指導者養成教室として切り離すことの出来ない研修もあるが、「消防訓練」などの新規研修の開拓を今後積極的に考えて行きたい。

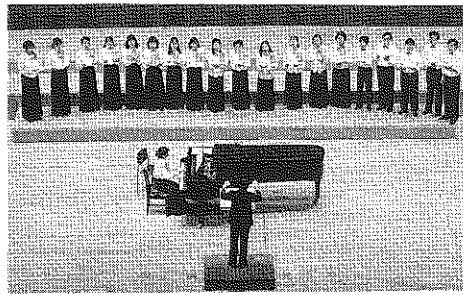
# ♡♡ チャリティコンサート連続出場に自信 ♡♡

## 部会コーラス部レポート

平成四年九月六日、シンフォニーホールで、青少年健全育成第四回チャリティコンサートが開催され、従事者部会コーラス部は、四年連続で出演した。

コンサートは、二部構成で一部はソリストの方の演奏、二部はコーラス団の合唱であった。

最後は出演者来聴者全員の「ちいさい秋みつけた」の大合唱で幕が閉じられた。



従事者部会コーラス部は、昭和五十三年に混声四部合唱として結成、現在混声三部合唱で活動。

保育所・児童施設、成人施設、老人施設から歌の好きな同志が集まり、四天王寺夕陽丘保育園で練習している。

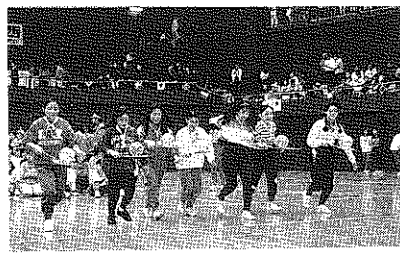
従事者部会コーラス部は、二部の一番目に出演、混声三部合唱で、「遠くで鐘が」どころが違つ「コスモス」を披露した。他のコーラス団に比べ小人数ではあったが、四年連続出演の名に恥じないよう、平素の練習成果を遺憾なく発揮、会場より喝采を得た。

入部希望、お問い合わせは泉ヶ丘園 易本まで。よろしく願ひします。

☎(七四)六七二二六〇

# 躍動の祭典

## 第18回従事者体育祭



観客席には、各チームカラーの横断幕も張られ、熱気に満ちた応援が行なわれとりわけ、応援合戦では、各チームとも趣向を凝らしたコスチュームやダンス等で雰囲気盛り上げてくれた。

各競技では、徒競走は二十歳台から五十歳台までの男女が脚力を競い、障害物競走などは転倒者も出てハラハラさせる場面も見られ、紅白玉入れも、皆、童心に戻って無心に玉を握りしめていた。

現在の、次の発表に備え新曲の練習に取りかかっている。

事務柄全放方市、松下電器産業体育館で千四百余名の参加者を集めて開催された。

## 部員募集

この記事を読み少しでも興味湧かれた方、一度練習会場に遊びに来てくださえ、各チームの士気を盛り上げたい。

## 第18回体育祭成績

優勝	三遊園	賞状賞状賞状賞状
優2	秀明	賞状賞状賞状賞状
優3	関西	賞状賞状賞状賞状
優4	アリア	賞状賞状賞状賞状
優5	イデア	賞状賞状賞状賞状
優6	ユア勢	賞状賞状賞状賞状

# 「白銀は招く」

## スキー教室、今年も充実

その昔「白銀は招く」と言うトニーザイラー主演の映画が大流行したそうだが従事者部会でも毎年、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団と大阪民間共済会から助成を得て、白銀に恋する従事者たちを集めてスキー教室を開催している。

老若男女が楽しめ大自然のオゾン存分に吸うことのできるスキーは健康的なレジャーだと思われ、他業種の従事者とも楽しく交流できるから、自分自身を向上させるうえでも得ることが多いと思うのだが...

スキーを通じて施設従事者の輪を広げるという効用もあり参加者は年々増えて

昼休み恒例の生き残りゲームでは難問に二喜二憂した。をさらっていく。

午後からのパン釣り競走は、大きな食パンを恥しうにかかえて走る選手がいたり、ムカデ競走ではなかなか進まず倒れ込んで身動きのとれないチームに笑いまじりの声援が送られた。男女対抗綱引きは、数が多かったためか、それとも底力

のせいか女性チームが優勝をさらっていく。

さて体育祭のメインイベント、最後のチーム対抗リレーは、各チームの精鋭が勢揃いし、スタートと同時に場内は、喚声の渦につつまれチームの威信を賭けて、選手たちは必死に駆ける、すばらしいレースが展開された。

初心者にはプロのコーチによる講習も受けられ上達する楽しみもある。

参加の中にはテクニシャンといつか上級者の方も多

い。

そしていつしか多忙な職場を忘れ身心ともにリフレッシュ。

次回もより多くのご参加を心より希望しております。

今年の「スキー教室」は、一月二十六日から二十九日、白場コルチナススキー場で、二月二十三日から二十六日山形県蔵主スキー場で開催されました。

なお問い合わせ先は、八尾母子ホーム、荒井まで。

(〇七)二九二二二〇三三三

性別	保育	老人	児童	成人	母子寮	計
男	468	681	571	854	23	2,579
女	5,881	2,412	1,786	1,310	103	11,492
合計	6,349	3,093	2,357	2,164	126	14,089

### 従事者部会常任委員紹介 No.3

星光保育園

望月まり子



共済会とは、各種慶弔金や退職金を頂くところから

### 従事者部会の思い出を語る

## 幅広い活動展開を

第十二代部会長 (昭和四十八年―五十二年) 澤藤 敬

第九代、山本部会長の時に、常任委員の一員になり

正副部会長を中心に、大阪の福祉を支える従事者の役割、意識を高める、給与問題などが月例常任委員会活動の議題でした。

私が部会長に就任させて頂いたのが、昭和四十八年。大阪民間共済会も、退職金制度中心から、互助共済制度も含めて今日の制度に飛躍・改善されました。これは従事者にとって大きな喜

びでした。従事者部会行事として実施されているスキー教室、集団指導者養成教室、コーラス部も、共済会事業と共に、従事者の仲間作りの輪です。

従事者の集いの場は、同じ業種施設の仲間、異なった業種、地域の違い、職種の違いもありますが、大阪の福祉を担う仲間として、情報交換の場であり、切磋琢磨の場でもあり、明日の

いの認識しなく、まして従事者部会とは？と訳もわからず出席した常任委員会。回を重ねるうちに、ずい分たくさんの行事があることを知り、他業種の施設の職員の方々と楽しく交流したり、知識を吸収することもできました。会員の貴重な掛金で運営されている共済会の各種行事に、一人でも多くの人が参加し、かつ楽しめるよう協力できればいいなあとも思っております。

養護施設・聖家族の家

上利 久芳

常任委員の中では古い方になりました。自分自身が常任委員であることは、とても勉強になります。ただ出身種別の人々にどれだけ還元出来ているかについては自信がありませんが、いろいろな研修会や行事を通して還元できればと考えています。

昨年三カ月ほど、米国の民間施設で実習する機会がありました。民間施設はその生き残りを賭けてもがいていました。日本の民間施設の措置費依存の甘い体質を考え直おす時期です。



私が特別養護老人ホームに勤めた頃、老人ホームの世界では「収容の場ではなく生活の場である」とよく言われていました。最近では「生活の質の向上」とい

過した今、特に思うことは児童、老人、保育、成人、母子寮と業種が異なっても社会情勢がどのように変わろうとも福祉を支えるのは人の心であり、感性豊かな心を常に持てるよう努力せねばと痛感しています。とり

しかし、「生活」という文字を見つめると、特別養護老人ホームに来られる方々自身に「生活」する為の条件が満されていないのが現実です。私はいわゆる生活施設従事者として、まず、漠然と「ホームは生活の場」と言わず、確かな「生活」観を持つことが大切だと思っております。

### 編集後記

### あかつき特別養護

老人ホーム

蛇草 真樹

精神薄弱者更生施設 太平学園

片木 康雄

常任委員として三年が経